

## 「2022年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 栗田夏美

私が本プログラムに参加しようと考えた理由は韓国の英語教育に興味があったからだ。韓国の語学堂で韓国語を学ぶことを通して言語教育を体感し言語習得の鍵を見つけること、それがこの留学のテーマだった。そのために10月半ばから韓国語を始めた。はじめは大学で韓国語の授業を受講した経験のない私が韓国に留学することについてとても不安に思っていたが、多くの学びある充実した3週間を過ごすことが出来た。私が考えた言語学習の鍵について述べた後、海外での経験に関して考えたことを述べたいと思う。

私が実感した言語学習における鍵は大きく3つある。

一つ目は全てを理解しようとするのを止めるということだ。語学堂の授業が始まってすぐの頃は先生の問いかけ、説明、生徒の発言の全てを理解しようと思いき、分からないことに出会う度に立ち止まっていたのでコミュニケーションが非常にとりづらかった。もちろんすべてを理解することが出来るならばそれが最も良いのだが学習の初めの段階においては全てを理解することよりも大枠を理解することの方が重要である、ということにあるとき気づいた。そう気づいてからはコミュニケーションがスムーズになった。もし間違っていたとしても修正すればよく、失敗することを恐れないことはこの一つ目の鍵の前提だ。

二つ目の鍵は単語や文法を使いまわすことだ。私はまだ韓国語の学習を始めて日が浅いので知らない単語や文法が多く伝えられることもあまり多くはないだろうと思っていた。もちろんそのせいで伝えられないこともないわけではなかったが、実際には限られた語彙の中でどのように言い換えるかを考えるとむしろ知識が限られていて口が言い慣れているからこそ咄嗟に口に出すことが出来るという場面も多くあった。そのような語彙を増やしていくのが今後の課題だ。そして本プログラムで使用された教科書においても前の課で学んだ単語と文法がそれ以降の課でも繰り返し使われていたので知らない単語も予測することが出来たし、何度も目にするのとそれらを使って先生の質問に答えること、つまり瞬時に例文を作ることを繰り返すことを通して暗記しようとしなくても自然と身につけていた。この自然に覚える、つまりその単語や文法とその意味や使用場面が日本語を介してではなく直接結びついた状態が重要なのではないだろうか。これが3つ目の鍵である。日本では英単語を覚える際単語帳を使って英単語とその意味を表す日本語をひたすら暗記するのが主流だ。日本語を介して意味とつながっているのに加え、英語→日本語→意味という方向性にのみ熟達しているので英単語を想起するのに時間を要し、結果的にスピーキング能力が向上しないのではないかと考えた。

次に、海外での経験について考えたことを述べたい。海外で三週間生活することは、その言語に、文化に、没入することだ。コロナ渦でオンライン留学も選択肢に加わったので言語を学ぶためだけなら実際に渡航することなく学ぶことが出来る。文化の違いについて書かれた記事もインターネットで探せば多く見つかるだろう。しかし知識として知っていることとそれを実際に体験して理解することは全くの別物だ。実際に渡航することからこそ文化の違いだけでなく同じ点、それぞれの良さも見えてくる。表面的な違いだけではなく文化を深く理解することは実際に海外で生活することによってのみ可能になると考える。